

松野賞のあり方についての一会員のご意見に対する回答

松野賞候補者推薦委員会委員長 坪木和久

2018年4月25日に委員長宛に、一会員より松野賞のあり方、特に申請の態様についてご意見をいただきましたので、気象学会理事会を代表して、松野賞候補者推薦委員会委員長から回答をいたします。

ご意見の趣旨：

松野賞について、大学院生の自主性を尊重することはよいが、指導教員と無関係に大学院生一人で行なった研究という価値判断が問題である。これは大学院教育システムや指導教員の立場を否定するものであり、教員にとって容認できないものである。

回答：

松野賞のあり方につきまして、貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。ご意見は本表彰のさらなる発展に重要なものと考えます。そこで、これまで理事会、準備委員会、ならびに松野賞候補者推薦委員会（以下、「推薦委員会」という）で議論してきたことをもとに、ここに回答させていただきます。

学生発表賞として設立された松野賞は、大学院生（以下、学生）の研究および発表の質向上とその後のキャリアパスへの寄与を目的としています。本表彰のプロセスには大学院教育システムや指導教員の立場を否定するという意図はなく、検討の段階から申請には学生が指導教員の了解を得て行うとして、申請の仕方

について準備委員会、推薦委員会で時間をかけて議論を重ねてきました。松野賞選定規程には、申請書とともに指導教員の承諾書および意見書を申請時に提出することとしてあります。また、申請書には本人の他に指導教員の氏名・会員番号・連絡先等を記載することにしてあります。

本年度（2018年度）春季大会では、初回の選考ということで、運用上、申請を行いやすくするために、指導教員の承諾書・意見書に代えて、発表者と発表内容に意見を聴ける方の氏名と連絡先を提出することを、推薦委員会で多くの議論を経て取り決め、理事会で承認されました。次回の大会からは規程にあるとおり、申請時には指導教員の了承を得た上で申請するものとして、承諾書および意見書を求めるようにしたいと思えます。

今回、ご指摘のようなご懸念を招いたことについては、本表彰の趣旨説明に不十分な点があったと反省しております。今後、規程に則った募集を行うとともに、推薦委員会ならびに理事会で、本表彰のあり方についてさらに議論を重ね、本表彰がよりよいもの、より価値あるものにしていきたいと思えます。これからも不足の点があれば、ご意見・ご批評をお願い申し上げます。このたびは貴重なご意見をいただき、たいへんありがとうございました。